

# 2010 年度フィリピン下見キャンプ報告書

2010 FIWC Kyushu Survey ☺



FIWC 九州フィリピンワークキャンプ



# 目次

1.はじめに .....	P1
2.メンバー他己紹介 .....	P2
3.お世話になった方々 .....	P3~4
4.下見行動記録 .....	P5~6
5. 2010年度フィリピンキャンプについて .....	P7~11
6.他の候補について .....	P12~16
7.マタグオブ市とビラバ市について .....	P17
8. Evaluationの結果報告 .....	P18~23
9.レイテ島での生活 .....	P24~25
10.保健報告 .....	P26
11.会計報告 .....	P27~28
12.キャンプTシャツについて .....	P29
13.メンバー感想 .....	P30~31

# 1.はじめに

2009年夏---この夏もFIWC九州によるフィリピンキャンプを行うことができました。今回は3人という少人数にくわえ、下見経験者がいないという状況でしたが、逆にそれを強みとし、新しい視点でフィリピンを見ることに重点を置きました。

6年目を数えるフィリピンキャンプ。多くの村を訪ねましたが、日本人のことを知っている村人がとても多いことに気づき、私達の存在が確実に現地に広まっているのを知り、歴史の重みを感じました。

～今年度キャンプテーマ～

## 一期一会

今回のキャンプではこのテーマを意識しながら活動しました。「一期一会」とは、その出会いは一生に一度のものと心得て誠意を尽くすという意味です。フィリピンと日本は遠く、会える時間も限られています。特に下見キャンプでは一度しか会えない人も多くいます。その限られた時間で出会ったその人、その村のために、自分たちにできる最善を尽くすよう努めました。

その結果、視野を広げるため訪れた隣のビラバ市では数多くの村を訪れ、来年以降のワークのための良い出会いをつくることができました。また、惜しくもワーク地から外れたマラサルテ村には現地のエンジニア、ロクロクさんとダディ・ドドンがボランティアとしてワークを行ってくれることになり、今回ワークが決まったサントロサリオ村以外にも良い影響を与えることができ、本当に良かったと思います。

他には、Evaluationを2年分行ったり、前回の村と新しい村で日本食をふるまったりと、去年より少しでも良いキャンプをつくることを目標に、活動することができたことを嬉しく思います。

最後に…経験の浅い私達が無事キャンプを終えることが出来たのは、金銭的にも精神的にも支えてくれた保護者の方々、FIWCのみんな、NorWeLeDePAI、そしてフィリピンの人々のおかげだと信じています。本当にありがとうございました！

Daghang Salamat sa inyong suporta!(\*^\_^\*)

2010年度フィリピンキャンプリーダー 岩永慎也

## 2. メンバー他己紹介

### ★しーやん

しーやんは一言でいえば「とても優しいリーダー」です。メンバーみんなの意見にじっくり耳を傾けてくれます。そんな彼はお酒大好き。しかし、どんなに眠くてもお金はきちんと数える(会計係だから)責任感の強いリーダーです。新メンバーの皆さん、安心してついていってください。あと、時々すごく突拍子のないコメントをするので、私は毎回はらはらします。新メンバーの皆さん、落ち着いて冷静に突っ込んでやってください。それでも、憎めないのが私たちの素敵リーダーです。(びよこ)



### ★びよこ

今回の下見で唯一女の子のキャンパーだったけど、そんなことには全くめげず、ミーティングでは率先して議論に参加してくれました！英語ができない自分はかなり頼ってしまったのだけど…。なのに現地人とはすぐ仲良くなれるびよこにひそかにライバル心を燃やしてました…。本キャンプではワークリーダーとして参加しますが、かなり頼れるワークリーダーになってくれそう。(たくみ)



### ★たくみ

一言でいうとスーパールーキー！初めてのキャンプとは思えない活躍を見せてくれました。どの村に行っても子供に大人気！バスケットコートに立つと、美しいレイアップを披露します。でも、一番思い出深いのはやっぱりキャンディラリアかな？(笑)次の本キャンプでも麦わら帽子かぶってこいよー！(^o^)/ (しーやん)



### ★なみさん

一昨年のキャンプリーダーでマニラのアテネオ大学に留学中。今回のキャンプでは3日間合流してくれました。英語とタガログ語を自由に操り、ぐいぐいコミュニケーションをとるなみさん。とても頼もしい存在ですが、中身は外見をすごく気にする普通の女子大生(笑)手伝ってくれて本当にありがとうございました！(^o^)(しーやん)



### ★さゆみ

なみさん曰く、地球上で最も美しい生き物(笑)国内連絡係りを担当してくれました。こまめにキャンプの状況を報告し、国内の人に分かりやすく説明してくれました。電話での声が元気なかったのは、フィリピンに行けなかったせい…？いつか自慢のダンスをみんなに見せてやれよ(\*^o^\*)(しーやん)



### 3.お世話になった方々

#### ★ロクロクさん

アルブエラ市に住む現地のエンジニアさん。1999年からFIWC 関東の活動に参加してくれている。FIWC 九州が発足後はFIWC 九州の活動にも参加してくれており、私たちをサポートしてくださっている。



ロクロクさんはFIWCのエンジニアであるとともに、FIWCの活動やメンバーの想いを誰よりも理解してくれる、そんなお父さんの存在でもある。下見中は現地人との仲介役として私たちをサポートしてくださった。また私たちが知らないフィリピンの文化や政治、国民性を教えてくれ、現地で私たちが活動するのになくってはならない存在である。

今回、FIWC 関東が新しいエンジニアを見つけたため、ロクロクさんはFIWC 九州だけに集中して参加出来るようになった。そのため、教会での活動がある土曜日とFree Dayを除いたほとんどの活動を共に行ってくれ、大きなサポートとなった。しかし、下見はスムーズに行ったが、結果的にロクロクさんに頼りすぎてしまったという私たち自身の問題も生じた。FIWCのワークはFIWC主体で行うべきであり、ロクロクさんに負担をかけないようにすることも考えていかななくてははいけない。

FIWCが帰国後は村長とFIWCの代わりにミーティングしてくれる。本キャンプの1か月前に電話をかけ、状況確認をする約束になっている。

#### ★ダディドドン&マミーサニー

前回のワークで多くのサポートをしてくださった元副マタグオブ市長夫婦。今回、FIWCが隣市ビリヤバまで調査を行う予定だったため、移動のしやすさを考えて、サンセバスチャンとリバーサイドの境界近くにあるダディドドン&マミーサニー家にホームステイさせてもらった。二人は今回の下見中、ともにビラバに行ってくれたり、村との話し合いにも参加してくれたりと大きな支援をしてくれた。またダディはロクロクさんと共同でマラサルテでのWater Systemの改善プロジェクトを行う予定。マミーの料理は多くの人を知るように天下逸品である！



## ★FIWC 関東

FIWC 関東は九州と同様にフィリピンのレイテ島で春に下見、夏にワークを行っている。今回は出発前から情報交換を行い、メリダで橋のプロジェクトを行っていた FIWC 関東を訪問した。その時ミーティングを行ったが、FIWC 九州にはないものを得ることができ、FIWC 九州にとって大きな刺激となった。またワークにも参加させてもらった。



これからも FIWC 関東と情報交換を進めて、お互いの活動に良い影響を与え続けていければよいと思う。

## ★NorWeLeDePAI

現地の NGO 団体で、レイテ北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っている。世界的な NGO である World Vision のドイツ支部から資金援助を受けている。



### ◆具体的な活動内容

- ・ 貧困家庭の子供とドイツのスポンサーを結ぶ。スポンサーは子供が学校を卒業できるように金銭的、物理的援助を行って、同時にスポンサーとの間で文通をしたりして文化交流を図る。支援を受ける家庭を RF という。
- ・ 村人が開発プロジェクトを自律的に運営できるように、地域のリーダーの育成
- ・ 子供に環境教育などのイベント
- ・ キリスト教の布教
- ・ 安定した収入源の確保、農業、学校設立、インフラ整備など、生活状況改善のためのプロジェクト

FIWC 九州は 2004 年の下見からノルウェルと協力体制をとっており、2008 年の本キャンプから正式なパートナーシップを結んだ。今回の下見では、貴重品の管理や Agreement の作成などでお世話になった。また、ビラバの下見にはノルウェルのリーダーであるアンが参加してくれた。そして 2010 年のサントロサリオでの FIWC のプロジェクトでは資金のカウンターパートを行ってくれることになった。それに伴って様々な摩擦が生じる可能性もあるが、ノルウェルとの関係を見直し、より良い関係を保てるような良い機会になると思う。今年の 10 月には現リーダーのアンが転勤するため、ノルウェルと連絡を取り合い、引き継ぎ後、カウンターパートを確定し協力を求めていくべきである。

## 4.下見行動記録

今回の下見キャンプではロクロクさん不在時に **Evaluation** を行うことで、より下見がスムーズに進んだ。結果として候補地に何度も訪問することができ、内容の濃い下見になったと思う。

今回の下見キャンプの行動記録の概要は以下の通りである。

8月17日(月)	福岡空港出発。台北、香港を経由して19時にセブ着。シランガンホテルに宿泊。
8月18日(火)	オルモックに移動し、ロクロクさんと合流する。ノルウェルとのMTG後、BRGY リバーサイドに移動し、ダディドドン家にホームステイする。
8月19日(水)	マタグオブ市の市長へ表敬訪問し、副市長とも話す。午後はFree。
8月20日(木)	隣市ビラバ市の市長を表敬訪問した後、BRGY タグブブンガ、スバ、ヒナブヤン、リバゴングの調査を行う。
8月21日(金)	ビラバ市のバレイテ、スバ、ヒナブヤンの調査を行う。
8月22日(土)	ロクロクさん抜きで、なみさんの協力のもと、マサハオンの <b>Evaluation</b> を行う。マタグオブでリバーサイドの橋の問題を聞く。
8月23日(日)	マタグオブ市の <b>BRGY</b> マラサルテ、カンディラリア、マンサリブの調査を行う。
8月24日(月)	1日かけてサントロサリオの調査を行う。サントロサリオの <b>School Project</b> について情報を得る。ワーク地をマタグオブ市ではサントロサリオとマラサルテに、ビラバ市ではヒナブヤンとバレイテに絞る。
8月25日(火)	メリダ市でワークを行っている <b>FIWC</b> 関東を訪問する。MTG 後、 <b>FIWC</b> 九州もワークの手伝いをさせてもらえる。
8月26日(水)	<b>Free Day</b> …オルモックでソロイソロイする。Tシャツのデザインを提出する。
8月27日(木)	マラサルテ、サントロサリオを再調査する。
8月28日(金)	サントロサリオのカピタンと <b>MTG</b> する。その後、 <b>FIWC</b> のみで <b>MTG</b> を行い、ワーク地をサントロサリオに仮決定する。ヒナブヤンとバレイテも再調査を行うも、来年の選挙を考慮してビラバ市は候補から外す。
8月29日(土)	午後からサンセバスチャンで <b>Evaluation</b> を行う。ワークをサントロサリオの <b>School Project</b> に決定する。
8月30日(日)	マラサルテに候補地から外れたことを報告し、サントロサリオに最終決定を報告。サンセバスチャンとブラクで再度 <b>Evaluation</b> を行う。
8月31日(月)	サントロサリオをソロイソロイし、 <b>FIWC</b> の説明をしていく。夜は



	BRGY が Welcome Party を開いてくれた。サントロサリオでステイ開始。
9月01日(火)	カピタンとカガウッドと Emergency MTG を行い、その後、オルモックに向かいノルウェルと MTG をする。
9月02日(水)	サントロサリオの学校が Welcome Ceremony を開いてくれる。その後、バランガイホールで GAM を開く。
9月03日(木)	オルモックに向かい、ノルウェルと MTG をする。その後、ダディ家に戻って、Farewell Party を開く。
9月04日(金)	朝、ダディ家を出発し、セブに向かう。飛行機の経由地である香港で宿泊する。
9月05日(土)	午前に香港をソロイソロイした後、台北を経由して、20:30 福岡到着。

**Evaluation**…過去に行ったワークがその場しのぎの一時的なものに終わらないように、またこれからの FIWC の活動がより良いものになるように、それまでのワーク地で行っている事後評価活動のこと。下見キャンプ中、村人に対して口頭でアンケートを行う。

**GAM(General Assembly Meeting)**…次回 FIWC がワークを行う村で、村人やノルウェルなどワークに関係する人に、ワークの概要を説明し、同意を求める話し合い。

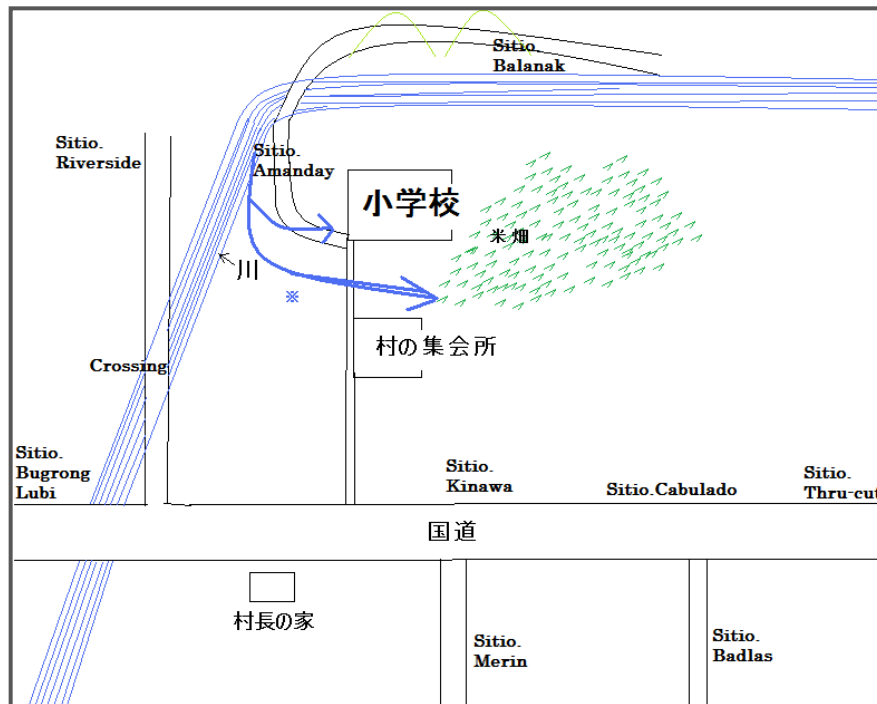
# 5. 2010 年度ワーク活動内容

## ★概要

- ・ 場所：フィリピン共和国レイテ島マタグ  
オブ市サントロサリオ村
  - ・ 期間：2010 年度 2 月～3 月の 3 週間
  - ・ 内容：①小学校のフェンス作り  
②小学校と周辺地域の水道システム整備  
③小学校内の建物の修理
- ・ 参加者：FIWC キャンパー  
現地エンジニア(ロクロクさん)  
村人ボランティア(バヤニハン)  
村役人(カガワット)  
サントロサリオエレメンタリースクールの教員  
NorWeLeDePAI(現地 NGO)

## ★詳細

### I. ワーク地について



※洪水時の水の流れ

### ◆サントロサリオ村

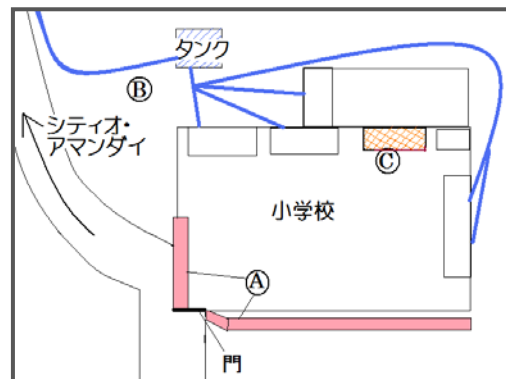
世帯数 450 世帯、人口 5,000 人以上に及ぶマタグオブ市内の中でも大きな村の一つ。特徴として子供が多い。広い土地柄を利用して、米などの作物を作り生計を立てている村人が目立つ。比較的低地にある上、村内に大きめの川が流れているため、洪水が起りやすい地域である。洪水は過去に死者が出るほど深刻な問題となっている。この村は、9つの部落(シティオ)から成る。今回のワークは学校のあるプロパーとシティオ、アマンダイ(約 70 世帯)で行う。(地図参照) FI 初のワーク地であるが、村長、村役人、教員ともに日本人に対してたいへん好意的である。また、ノルウェルの管轄地でもある。

◆セントラル・エレメンタリースクール

生徒数 315 人の大きな小学校。サントロサリオ村中の子供がこの学校に通っている。学校は川より低地にあるため、雨が降ると水浸しになってしまう。また、隣の市で雨が降った場合も被害を受けることがある。2008 年 7 月の台風時に学校のフェンスが崩壊し、現在は無防備な状態。そのため、雨が降ると状況によっては休校や、生徒を途中下校させることも。市や村、ノルウェルなど皆がこのような状況を長年懸念してきた。また、学校に水が通っておらず、国道付近まで水を汲みに行かなければならないことも問題である。深刻な状況にあるため、女校長のプレシーさんは FI に協力的でプロジェクトにも積極的である。

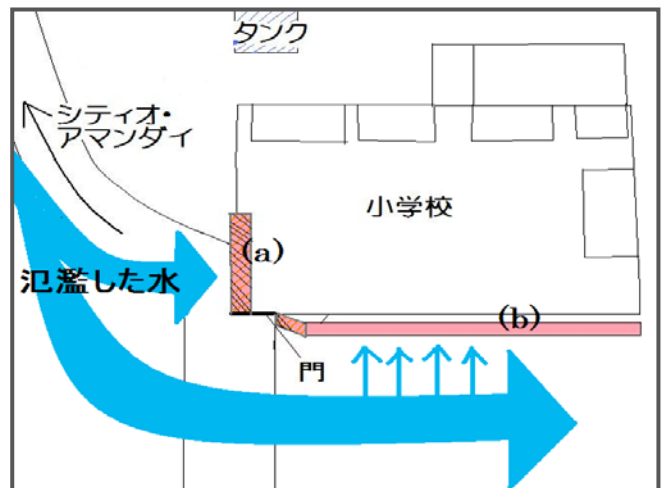
II. ワークについて

今回は小学校を中心とした 3 つのワーク (A~C) を同時進行で行う。



① 小学校のフェンス作り

- ・ 期間 : 3 週間
- ・ 人員 : 大人数必要 [②③以外のFIWCキャンパー+skilled worker+helper]※
- ・ 内容 : 学校の周り(二辺)にフェンスを作り、校内への浸水を防ぐことで、校舎と所有物を守る。フェンスはハローブロックを使用し、長さ 130m(40+90m)、耐用年数約 40 年。フェンスの(a)の部分は水の流れを妨げるように受けるので特に強化する。逆に(b)の部分は水の流れと平行なので(a)ほど強化しない。どちらかというと専門的労働というより肉体労働である。

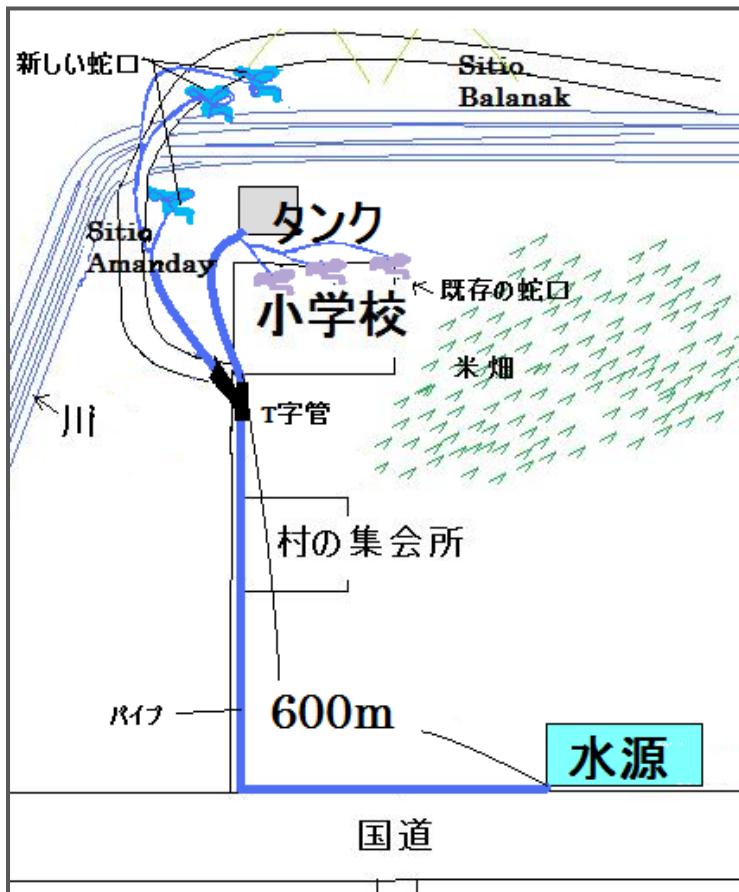


・資材と費用：

資材名	金額(peso)	
Hollow block(規格4)	18,000	(a) 40m
Steel bars	23,000	
Cement	27,000	
Hollow block(規格6)	6,480	(b) 90m
Steel bars	11,500	
Cement	14,000	
Sand	25,000	
Gravel(small stone)	10,000	
Tie wire	800	
Plywood forms	1,800	
Nails	600	
Jack saw blade	350	
Shovel		
Coco lumber		
<b>ワーク①資材合計</b>	<b>約 138,530</b>	

⑧ 小学校と周辺地域の水道システム整備

- ・期間:1週間
- ・人員:FIWC キャンパー(1~2人)+skilled worker+helper※



・内容:学校と水の無い周辺部落に水を通す。まず、水源から既存のタンク(未使用)へ水を引き、パイプで校内の既存の蛇口へつなぐ。その際、学校の裏のシテオ.アマンダイにもパイプを延ばし、3つの蛇口を取り付ける。

・資材と費用

資材名	金額(peso)
1inch(1roll) pipe	6,000
3/4inch(2roll) pipe	6,000
1/2inch(1roll) pipe	3,000
Faucet(蛇口)	
Tee	
Nipple	
Tape loan	
Coupling	
<b>ワーク⑧資材合計</b>	<b>約 25,000</b>

◎小学校内の建物の修理

- ・期間:2週間
- ・人員:FIWC キャンパー(3人)+skilled worker(2人)+helper※
- ・内容:台風の被害と老朽で壊れかけた施設(保護者のミーティングや子供たちの休憩・食事時に使われる)を修理する。一度朽ちた建物を骨組みから修理していく。耐用年数は約40年。
- ・資材と費用:

資材名	
Board feet	Nail
Post rap	Tie wire
Machinic bolt	Plywood
Steel bar	Sand
Cement	Gravel

ワーク◎資材合計	約 50,000
----------	----------

◆費用総額

①	14,000
②	25,000
③	50,000
<b>資材合計</b>	<b>215,000~230,000</b>

◆カウンターパート(資金源)

- ・資材(P)

FIWC	100,000
BRGY(村)	70,000
NorWeLeDePAI	60,000
	<b>230,000</b>

- ・食費(P)

ワーク中の昼食・休憩時間に提供されるお菓子や飲み物・FI先発隊の1週間分の食事がこの費用に含まれる。(ワーク中は無償で働き手に昼食・スナックを提供してもらい、FI先発隊の一週間の食事も提供してもらう)

BRGY(村)	30,000
小学校	10,000
	<b>40,000</b>

#### ◆人員

全体で一日 40～60 人集める予定。内訳はFIWC(10～15 人)、村役人(数名)、村人ボランティア・バヤニハン(40 人程度)である。バヤニハンとして、子供たちの保護者(PTA)も参加予定。村と学校側が村人の希望を元に働き手のスケジュールを組み、一日の労働者数が一定になるようにする。この 40～60 人を④～⑥の 3 つに分けて活動する。村人はskilled worker(技術を持っている熟練労働者)とhelper(それ以外の人)に分ける。FIWCキャンパーとhelperは日ごとに④～⑥をローテーションする。これによって、作業や交流の偏りを避ける。しかし、skilled workerだけは作業のノウハウを知っているのでローテーションはせず、固定する。

#### ◆寄付活動

今回は、初の小学校プロジェクトということで、FI が鉛筆など学用品の寄付をしてはどうかという案が挙がった。これは、キャンパーとともに具体的に考えていく予定である。

### III. 決定経緯

FI は、前回の本キャンプ時からサントロサリオ村を下見調査していて、今回も市長の紹介で足を運ぶことになった。初めは小学校と村の一部の浸水・洪水を防ぐため、川岸に堤防を作るということで調査を進めていた。しかし、国費事業並みの規模の大きさと住民の利害関係(川岸の一部に堤防を作れば、堤防の及ばなかった地域の水害が増加する)などが発覚しワークが不可能だと悟った。その後小学校の校長の要望を受けて、水道設備と古くなった校舎の下見をしていると、浸水から学校を守るフェンス建設の案が挙がった。3つのワークの同時進行、規模の大きさや必要性、フェンスの耐久性、有用性、費用など不安を感じる点が多かった。また、村が広いと村人との交流が希薄になったり、偏ってしまう可能性も懸念した。これらの疑問点を前にワーク地決定まで至った理由は、フェンスの耐久性等を確認できたこと、政治的中立が実現しやすいこと(今回は選挙期間中のキャンプになるため)、他の村に比べてニーズが高いと判断したこと、村とノルウェルから費用面で協力を得られたこと、ノルウェルとの関係を再建できること、そして今回新しいことに挑戦したいということでメンバーの意見が一致したことである。

#### サントロサリオ小学校の様子



## 6. 他の候補地について

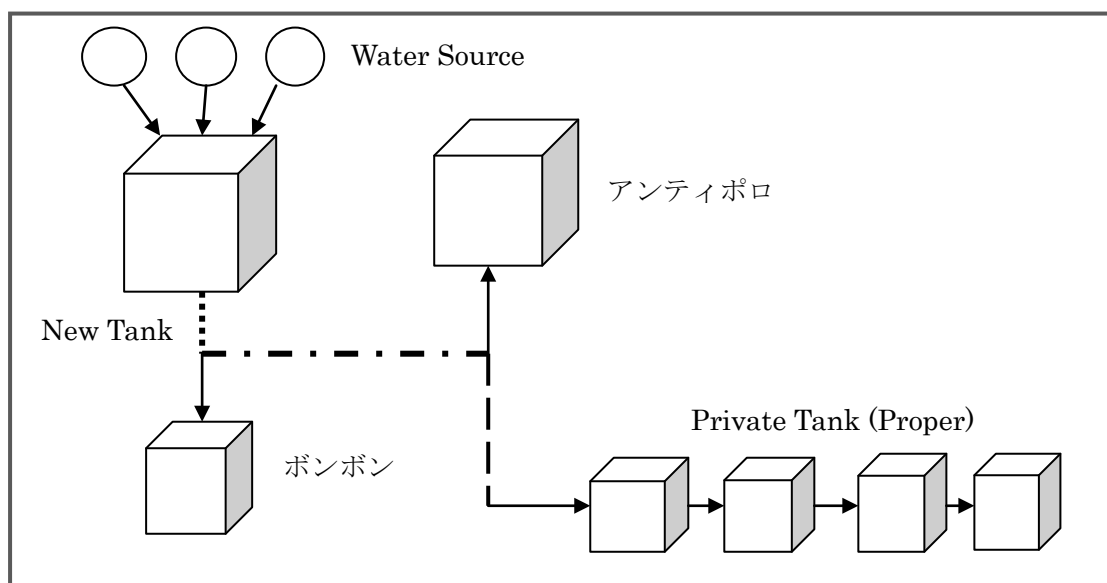
今回の下見では以下の9つのBRGYで10のワーク候補地を調査した。最終候補決定にあたってはサントロサリオ、マラサルテ、ヒナブヤンが残り、結果的にサントロサリオが選ばれた。今回ワーク地から外れてしまったBRGYはこれからも調査を続け、状況を把握していきたい。またこれらのBRGYの状況を報告会やホームページを活用して、多くの人に知ってもらう活動を進めると同時に、募金や学用品の支援など、幅広い視野でFIWCができることを探していきたいと考えている。

### ★マラサルテ

#### ◆村の概要

- ・世帯数：70世帯 人口：400人
- ・この村には3つのCitio(Proper、ボンボン、アンティポロ)がある。それぞれのCitioには山の中にある3つの水源から水が引かれており、2つはボンボン、プロパーのタンクに通じており、残る1つがプライベートタンクにつながれている。今回水源を訪れてみると、水源近くのタンクが台風によって壊されており、小さなポリタンクで代用していた。しかし、これでは内部に貯められる水量も少なく、さらにタンクにごみが入りやすいため、水が汚染される可能性がある。実際に雨期になると多くの村人が腹痛を訴えるようだ。もう1つのタンクも水量が少なく、しかもパイプには亀裂が入っており、水がもれていた。

#### ◆ワークの概要



水源近くに新たにタンクをつくと同時に、パイプを太いものに変え、亀裂のある個所を取り換えることで、すべてのタンクの水量増加と水質改善を目的としたワーク案がロクロクさんに提案された。

ワークの詳細は

- ①複数の水源からの水をためるタンクを作る (New Tank)
- ②ボンボンのタンクを修理する
- ③……のパイプをより太いものに変える
- ④もともと……にあったパイプを—・— に付け替える
- ⑤もともと—・— にあったパイプを— — — の部分に付け替える

#### ◆FIWC の判断

ここ半年で腹痛による重病人を数人出すなど、緊急性や村人のニーズも高いように思われた。だがミーティングを重ね、ニーズの高さなどから最終的にワーク地はサントロサリオ村に決定した。これは BRGY が独自で貯金をしていたり、技術的に BRGY のみで可能であったりと、積極性のあるマラサルテ自身で解決できると考えたからだ。

FIWC の最終決定以前にロクロクさんから、パイプの修理は村人のみで出来るものの、技術的に難しいタンクだけでも FIWC が協力し、サントロサリオと同時にワークを行う案が提案された。しかし、数日だけ BRGY に訪れてワークを終了という BRGY との関わり方は良くないと思うし、中途半端に手を広げてサントロサリオのワークが疎かになってはいけな思考え、悩んだ末マラサルテではワークをしないことに決定した。

しかし、下見に同行していたダディ・ドドンがロクロクさんと2人でタンク作りだけ、ボランティアで行うと言ってくれた。今後はロクロクさんと継続して連絡を取り、ワークの状況を聞きつつ、交流を保っていきたい。

## ★ヒナブヤン

#### ◆村の概要数：1000 世帯 人口：3500 人

- ・ビラバ市の中で最大の村。とても範囲が広く、住民が散らばって暮らしているので、それほど人数がいるとは思えなかった。しかし、小学校には遠くから通う子供おり、400 人近い児童がいる。村人は初めて見る日本人に対しても抵抗なく接してくれた。カピタンも親切で下見にも積極的に参加してくれた。

#### ◆ワークの概要

村の一部が山間部に位置し、そこにある水源から中腹のタンクにパイプを引いている。しかし、このタンクには亀裂があって水漏れを起こしているうえに、2か所にし



かつながれていない。私たちがタンクを見たときは、全体の2割程度しか水が入って  
いなかった。この2か所には大勢の人が集まるため、タイムテーブルを決めて、交代  
制で水をくんでいた。したがってワークはタンクの補修と水が行っていない Citio へ  
のパイプをつなぐことであった。

また、小学校には蛇口が1つしかなく、水量は少ない。教室には多くのポリタンク  
があり、教室のトイレの水などを全て児童が汲みに行っていた。そのため学校への水  
量を増やし、貯水用のタンクを作ることを村のワークと同時に進行する案だった。

#### ◆FIWC の判断

この村はビラバ市の村のなかでも、最後まで候補地に残った。これは小学校でのワ  
ークは非常にニーズが高いと思われたし、予算的に村の Water System も同時に改善す  
ることが可能だったので、それができればより多くの人を救うことができると考えた  
ためである。

しかし、ヒナブヤン村は海に近く、ワークであてにしていた地下水がその後の調査  
で海水の可能性があるとわれ、さらなる調査が必要になった。また、小学校には台  
風で全壊状態の建物が2棟あり、そちらもワークしたかったが予算的に無理だった。  
水道設備だけという中途半端なワークはしたくなかったし、来年は選挙も控えている  
ため、新しい市ビラバでのワークは来年以降に見送ることにした。

以下、ワークの概要のみ記載する。

### ★バレイテ

プロジェクトの内容は学校と水源を直接パイプで結び、学校への水量を確保するもの  
である。このプロジェクトは校長先生が計画していたものであり、先生たちにもすで  
に紹介しているようだ。学校でプロジェクトを始めようとしているが資金が集めること  
ができない状況である。

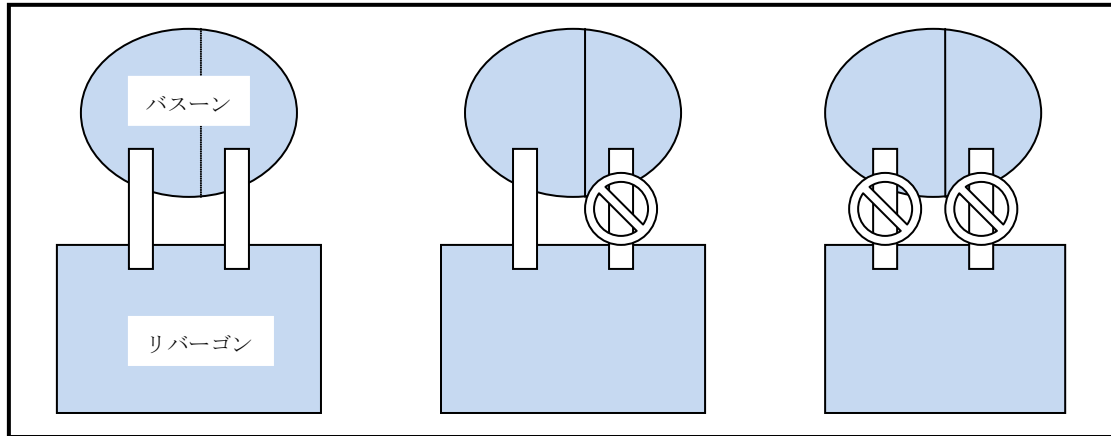
### ★タグブブंगा

現在、村近くの水源からくみ上げに使われている電気ポンプを休ませ、より効率的  
に村へ水を分配ができるようにするためのワーク案であった。

- ①電気ポンプで得た水を貯めるタンクを作る
  - ②電気ポンプと新しいタンクをパイプでつなげる
  - ③村の既存のパイプとタンクをつなげて、村に水を分配する
- こうすることで頻繁に起こる断水も減らせることができる。

## ★リバゴン

今回の下見で提案されたプロジェクトは本島と島を結ぶ橋の建設であった。



島はバスーンという Citio からなっているが、この Citio は 2 つの異なる政党を支持する住民からなっており、以前は本島と島を結ぶ橋は 2 つあった。しかし、台風によって片方の橋が破壊されてしまい、両方の住民が 1 つの橋を使うようになった。だが、さらにもう片方の橋も違う台風によって壊れてしまった。そして現在は竹の橋を作って使っているが、子供たちは登校するには危険な竹の橋を通らなくてはいけない。

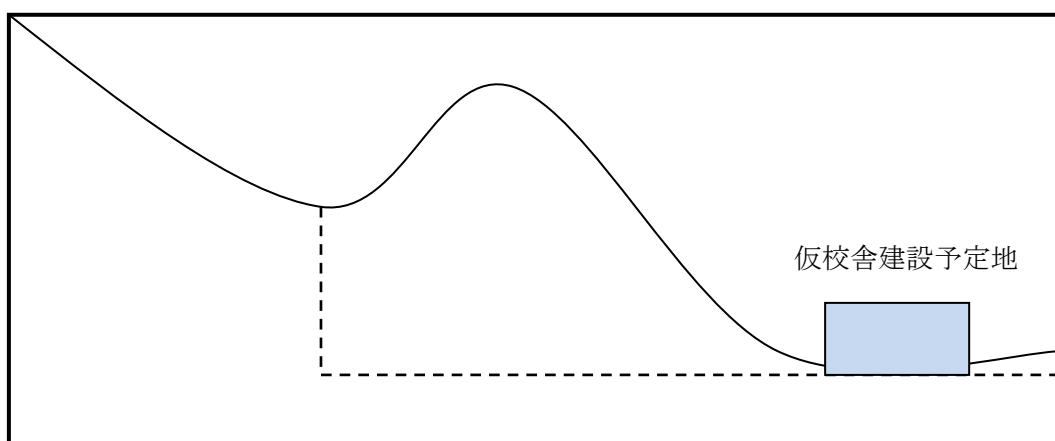
橋は車が通れるほどの大きさを計画しており、P100 万を超える大きなプロジェクトになると考えられた。

## ★スバ

始め市長からは老朽化した橋の修理がスバの最も必要としているプロジェクトとして提案されたが、カピタンから提案されたのは Water System の設立であった。Water System のプロジェクトは BRGY と水源の約 3 キロをパイプでつなぐというものであった。なお、橋の修理となるとトラックも通るほどの大きい橋となるため、資金的に厳しいだろうと判断した。

## ★カンディラリア

現存の小学校の建物が地滑り被害の危険にあり、子供たちが非常に危ない校舎で学ばなければならない。国による校舎移転は決まっているものの、時期未定で、急を要する校舎移転には十分ではない。そのため校舎移転予定地に国によって新校舎が建てられるまでの仮校舎を建てるのがプロジェクトの内容であった。



国は点線の部分の山を切り崩し、土地を造成した後、新校舎を建てる予定である。FIWC の計画はこの土地の下部にある、現在バレーボールコートになっている場所に仮校舎を建てるものであった。

## ★マンサリブ

マンサリブは Proper とマンアイ・サアイ・リップゴンの3つの Citio から成っている。またコルバダ・マンサニータス・カムンガイ・タマルワンの4つのポロック (Citio より小さい集落単位) があり、このうちコルバダ・マンサニータスは Proper に属している。マンサリブでのワークは Water System であるが、特に水不足の深刻なリップゴンとカムンガイでワークを行うことを提案された。

## 7. マタグオブ市とビラバ市について

### ★マタグオブ市の現状

フィリピン東南の島、レイテ島の西側に位置する市で、中心にはパブリックマーケットなど様々な店が立ち並ぶ。その一方で山間部に位置する場所も多く、水道や生活環境が整っていないため、貧富の差も大きい。生活に必要なものが買やすく、緊急性のあるニーズが多くあったので、活動拠点として候補にあがったのである。

2006年夏から FIWC 九州によるワークが始まり、マンサハオン村、サンセバスチャン村でのワークに加え、様々な村での交流活動を行ってきた。その活動は確実に現地に浸透しており、日本人への理解が深まっていた。

また、ニーズに関しては私たちが過去にワークを行ったところはもちろん、訪れただけのところも、自分たちでなんとかしようという意識が高まっていて、自らワークを行っていたところもあった。労働意欲を高めるといっても FIWC の目的の一つなので、とても嬉しかった。

しかし、政治については問題をいくつか抱えている。市長と副市長が1年ごとに交代するなど不安定であり、来年の5月に市や村も含めた大選挙を控えているため、政治に影響を与えないよう注意して今回の下見を行った。

### ★ビラバ市移動について

今回マタグオブ市における下見は4つの村で行った。過去に下見やワークを行った村もいれるとおよそ10もの村を見てきたことになる。その中で、ニーズが高く、予算的にも可能なワークは今まで行っており、他のプロジェクト案はあまり村人のニーズが高くなかったり、莫大な費用がかかったりして、選択肢が限られていた。そのため、来年以降も見据えて選択肢を増やすために隣のビラバ市における下見を今回行った。

ビラバ市はノルウェルのリーダー、アンに教えてもらった場所である。低地に位置している村があり、洪水による被害が多くみられた。Water System の問題がほとんどで、学校の建物修理や橋建設のプロジェクト案などもあった。なかにはヒナブヤン村のような緊急性の高いワークもあり、最後まで悩んだが、マタグオブ市に残るワークを見過ごしてビラバ市に移ってしまうのは忍びないうえ、来年の選挙を考えると過去の実績で信頼のあるマタグオブ市のほうが確実であると考え、来年以降にまわすことにした。

話し合いの結果、次回のキャンプはマタグオブ市のサントロサリオ村に決まったが、来年以降にビラバ市移動も大いに考えられる。そのための関係作りとして、今回の下見はとても大きな意味があったと思う。また今年のキャンプテーマは「一期一会」である。今回の訪問が無意味なものにならないよう、来年以降にしっかり引き継ぎ、FIWC などの誠意を尽くしたいと思う。

## 8. Evaluation 報告

今回の下見キャンプでは前回と前々回のワークの Evaluation を行った。Evaluation 実施地はサンセバスチャン、ブラク、マンサハオンである。前々回のワークは 2007 年度と 2008 年度の二年越しのプロジェクトと考える。

### ★2009 年度ワーク

#### ◆ワーク内容

サンセバスチャンにもともとあった橋は高さが低く、大雨になると川の水かさが増し、渡れない状況だった。村人が町に行くにも、子供たちが学校に行くにも橋を使うため、橋を渡れないのは大きな問題だった。そこで 2009 年度ワークはコンクリート製の橋の建設だった。

このワークは予定された期間は 2 か月で、FIWC はそのうち中間の 2 週間のみワークに参加した。ワークは以下の流れで行われた。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| ①足組み作り          | ⑥手すりの設置      |
| ②土台作り           | ⑦アプローチ(入口)作り |
| ③骨組み作り          | ⑧橋への道づくり     |
| ④レップラップ(柱の補強)作り | ⑨足場外し        |
| ⑤セメント詰め         |              |

この橋はサンセバスチャンの人だけでなく、サンセバスチャンの上にあるブラクの人たちも利用する。そのためサンセバスチャンだけでなく、ブラクでも Evaluation を行うことにした。

#### ◆Evaluation 結果

##### ・ Evaluation 内容

- ①FIWC の昨年プロジェクトである橋から利益を得ていますか？  
またどのように利益を得ていますか？
- ②FIWC が BRGY に滞在することについてどう思いますか？
- ③FIWC の帰国後、何か橋に問題がありましたか？
- ④他に BRGY に問題がありますか？

##### ・ Evaluation 結果 (11 軒)

<サンセバスチャン>

2 日に分けて Evaluation を行った。

①利益を得た 11 軒

- ・以前は雨が降ると子供の登校に親が付き添ったが、子供たちは洪水時でも子供たちだけでも登校できるようになった。
- ・洪水時でもバイクも橋を通ることができる。
- ・たくさん雨が降った日に特に大きな助けになっている。

②よかった 11 軒

- ・他国から訪れてくれたことは、良い刺激になり、村人に良い影響を与えた。
- ・親しい友人を作ることができよかった。
- ・橋を作ってくれてよかった。

③なし 11 軒

④ある 9 軒 なし 2 軒

- ・リバーサイドの水の氾濫(4 軒)  
雨がたくさん降った時には橋を越えたリバーサイドの川が氾濫して、道が通れなくなってしまう危険。またバイクが流されそうになることもある。
- ・リバーサイドからブラクまでの砂利道(4 軒)  
雨が降った時は泥道となり、歩きにくく、バイクも走るの危険。
- ・Water System (2 軒)  
村の一部ではホセツがなく、水に不自由している。

<ブラク>

ブラクはサンセバスチャンからかなり離れており、今回の Evaluation では時間の都合上、ブラクの入り口付近にある 1 つの家庭のみしか Evaluation を行うことができなかった。Evaluation を受けてくれた女性はブラクの小学校の先生だった。

①Yes.大雨のときはかなり役立っている。

②特にサンセバスチャンには良い影響を与えてくれた。また日本人と友情関係を結べたのも良かった。

③特になし

④ブラクの小学校の校舎。老朽化した木造建築でかなり危険な状況にある。雨漏りもひどく、雨音も大きいため、授業が中断してしまうこともある。先生たちの給料で修理を行ったが、資金が不十分だったので、BRGY に修理を要求しているが反応はない。

ブラクの小学校の問題はサントロサリオでのワークが決定した後で判明した問題だったので、残念ながら今回の下見キャンプでは受け入れることができなかった。し

かし、来年の下見キャンプでは調査を行いたいと伝えた。

またマンサハオンでの **Evaluation** の後、帰宅中にマタグオブでリバーサイドの橋の問題を女性から聞いた。翌日、状況を見たが、必ずしも安全とはいえないものの、それほどニーズが高いとは感じられなかった。橋を訪れたことは女性にメールしたが、返事はなかったの、それまでになってしまった。



\*現在の橋の様子

## ★2007 年度・2008 年度ワーク

### ◆ワーク内容

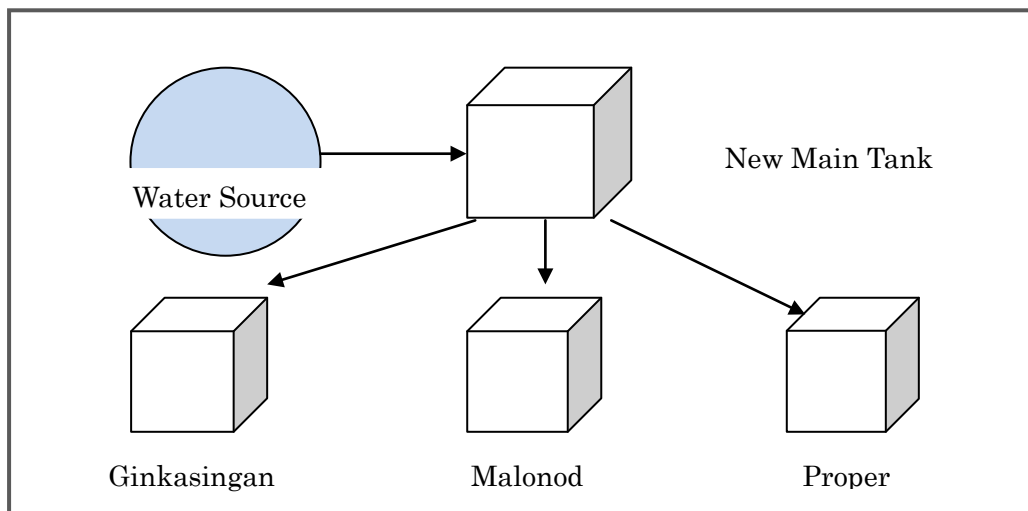
#### ・2007 年度ワーク

内容：①パイプを通すための溝作り

②パイプをより太いパイプに交換

③ギンカシガンに新しいパイプを作る(現地人のみ)

水源から村までのパイプを太いパイプに交換し、村に届く水量を増やした。またそれまでバランガイホールのそばのタンクに繋がっていたパイプを、村の中央の使われていなかったタンクに繋ぎ、そこからバランガイホール (**Proper**) のそばのタンク、マロノッドのタンク、新しく作ったギンカシガンのタンクに分配するようにした。



しかし、2008年下見キャンプで、FIWC 帰国後に New Main Tank に繋がれていたイブは元の中心部のタンクに繋ぎ換えられ、New Main Tank は使われず、ギンカシガンとマロノットの2つの Citio には水が届いていなかった。その原因は高低差による水圧の関係で New Main Tank に届く水量が足りず、中心部と2つの Citio に分配することができなかったためである

・2008年度ワーク

内容：①Small Tank と Big Tank の建設

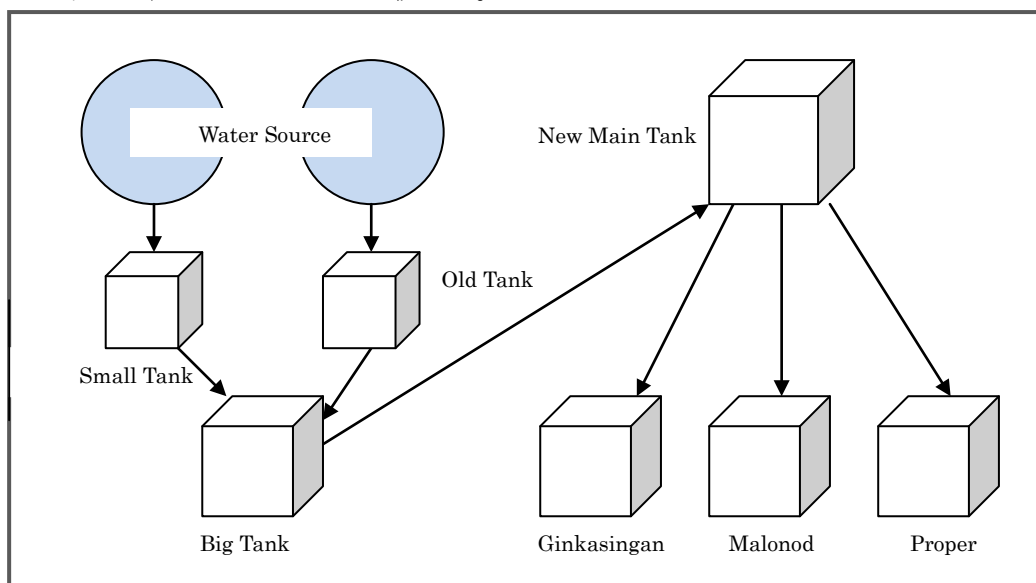
②Small Tank と Old Tank それぞれを Big Tank とパイプでつなぐ

③Big Tank と New Main Tank をパイプでつなぐ

④各タンクの掃除、昨年埋めたパイプの修理

⑤パイプを埋める

ロクロクさんの協力のもと新たに見つかった水源からギンカシガンとマロノットに水を通す計画。FIWC が水が行き渡るのを見られるようにと、先にパイプをつなぎ、後で穴を掘りカバーすることになった。穴を掘りカバーする作業は、FIWC 帰国後も毎週土曜日にバヤニハンが続ける。



◆Evaluation 結果

・Evaluation 内容

カピタンに英語が通じず、ビサヤ語による Evaluation であることと前々回のワークの Evaluation であることから、Water System はどうか？という質問のみを聞いた。今回の Evaluation はなみさんの協力のもと行った。

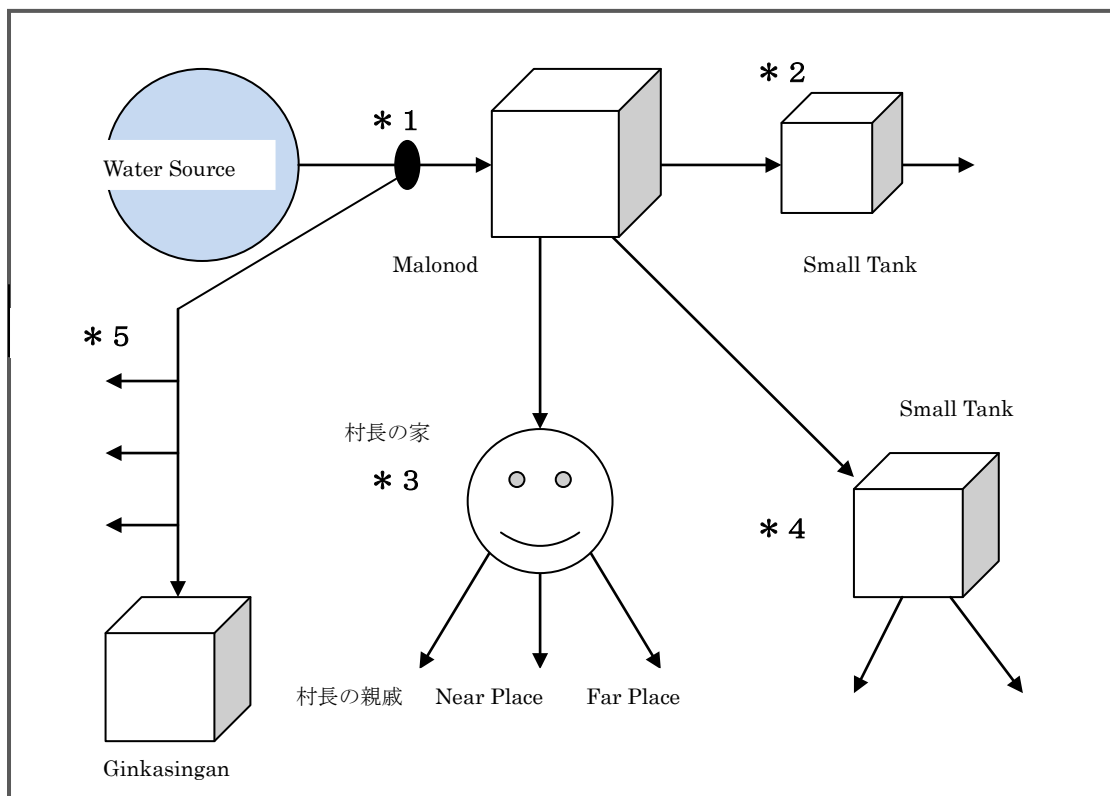
・Evaluation 結果

まずカピタンに Evaluation を行ったが、1つのタンクを2つの村で使用しているた



め水量が少なくなってしまうのが問題のようだ。もう1つ新しくタンクを作ってほしいと言っていた。しかし、以前より蛇口は近くなり、水質も向上したため、満足しているようだった。

この後 FIWC のみで Evaluation を行ったが、FIWC 帰国後に新しくパイプが繋がれたり、繋ぎ方が変わっていたりしており、現状把握が難しかったため村長の協力の下、マンサハオンの状況を次ページにまとめた。



- \* 1 : 水が流れる方向をコントロールするバルブがある。村長がこれを用いて AM5:00~PM5:00 はギンカシンガンに、PM5:00~AM5:00 はマロノッドに水を流すようにコントロールしている。
- \* 2 : マロノッドのタンクが満杯になり、水が溢れるときはこの Small Tank に水が流れる仕組みになっている。ここからは近くの家パイプがつながっているが、Evaluation 時にはタンクに水はなかった。
- \* 3 : マロノッドのタンクからは村長の家常に水が流れるようになっている。そのためカピタンは自由に水が使える。また村長の家では朝は Far Place に水を流し、他の 2 つのパイプも時間を決めて水を流しているようだ。

\* 4 : マロノッドのタンクからパイプが繋がっており、そこから2つのパイプが繋がっている。Evaluation時には少量の水が Small Tank に流れていた。そこからはもう一方より低い位置にあるパイプのみに水が流れており、タンクに構造上の問題があると考えられた。しかし、住民によると昼と夜で水が流れるパイプが変わるようだ。

\* 5 : Evaluation時にはギンカシンガンに十分な水が流れていた。ギンカシンガンのタンクにつながるパイプはタンクにつながる前に長細い村を横断している。そのパイプにはいくつかの蛇口が付けられ、村人全員が最寄りの蛇口から水を得られる。また Evaluation時にはタンクから水があふれており、Water System がうまく機能していることが伺えた。

このように Water System は村長のコントロールのもとにあるが、ほとんどの家には時間により水が行き渡っていることがわかった。また村人も言うとおりに、以前より水状況はかなり改善され、水質の向上にも大きく貢献しているようだ。特にギンカシンガンでほとんどの人が満足しているようであった。

まだ水量不足、パイプの水漏れ、水分配の不平等、水が来ない家があるなどいくつか問題が残るものの、村人自身で修理・改良を行っており、次第に諸問題も解決されていくのではないかと思う。

## 9. フィリピンでの生活状況

**★衣**→かなりラフな格好。基本的には汚れても良いTシャツに短パンやジャージ、そして

クロックスのようなサンダル。虫・草負けや日焼け、朝晩の冷え込み対策に長袖・長ズボン1着ずつは必要である。また、市の役員に会うなど公式な場があるため、襟付きのシャツを用意しておく。日差しが強いので帽子は必要!!!村人に早く名前を覚えてもらえるように、100均のキャップを買い名前を書いて常に持参する。衣類が足りなくなった時は現地でも調達できる。

**★食**→朝・晩は滞在先のお母さんが作ってくれたため、野菜や肉などの食材を買って渡し

ていた。昼は下見調査先の各村に御馳走になっていた。(フィリピンでは客をもてなす文化があるので、行く先々で昼食やスナックが出てくる。) フィリピンの食事は、豚・魚・野菜を使った濃い味付けのおかずと白ご飯が基本。ほとんどの料理が日本人の味覚に合いおいしい。しかし、あっさりしたおかずや新鮮な野菜が時々恋しくなる。フィリピンでは、おいしいお菓子やパン、バナナ、ココナッツ、季節のフルーツなどを食間に食べる「スナックタイム」がある。安くておいしいものばかりで常におなかいっぱいになれる。飲み物は、水か炭酸飲料かお酒。水はミネラルウォーターを買って飲み、生水は飲まないようにする!!!フィリピンでは、お酒を飲む文化が染みついている、夜にトゥバというココナッツを発酵させたお酒やラム酒やビールなど色々と飲まされる。

**★住**→今回の滞在先はリバーサイド村にあるダディとマミィの家(約2週間)とサントロ

サリオ村の村会議室だった。どちらも2階にあったため比較的蚊が少なかったが、寝る際は蚊帳を張ったり、蚊取り線香を炊いたりした。蚊帳の中ではゴザを敷き、ブランケットをかけて寝た。サントロサリオ村では、子供たちが押し掛けてくるので大変だったが、下にバスケットコートがあり、子供たちと仲良くなれやすい環境である。

**★風呂**→湯船やシャワーには滅多にお目にかかれない。トイレで、大きなポリバケツや

井戸に溜めてある水を手桶ですくって水浴びするリーゴというものが主である。井戸の場合は、屋外での水浴びになるため、服を着たままの水浴びとなる。最初

は抵抗があるが、慣れると冷たい水が気持ちいい。夜は冷えて風邪をひきやすいため、朝か昼に行く。フィリピンには、良い香りの石鹸やシャンプーが沢山あるのでオススメ。

**★洗濯**→ラバと呼ばれる。大きなたらいに水を溜め、現地の洗剤で手洗いする。手洗い

に慣れていない私たちにはなかなか汚れを落とせないが、現地のお母さんたちや子どもたちは、きれいに汚れを洗い落とせる。2～3回洗いとすすぎを繰り返し、洗い終わった洗濯物は家の周りのロープや柵に干す。洗濯は計画的にやらないと、着る服がなくなる事態が発生するので注意。

**★トイレ**→便座がない、低く小さな洋式便器が主流である。水洗ではないので、手桶で

水を汲み流す。紙は流せないなので、使ったティッシュはゴミとして捨てる。大きい方はうまく流れきらないことがあるので、後の人に迷惑をかけないためにも頑張っってしっかり流しきる。

**★買い物**→食材や石鹸などの生活雑貨、薬、衣料品などは、バイクで10分程度のマタグ

オブ市のマーケットで大体手に入れることができる。日本に比べるとかなり安い。また、村にはサリサリと呼ばれる小さな商店があり、スナックや石鹸などを購入でき、ロード(携帯料金のチャージ)も可能。休日には、バスで1時間程度の港町オルモックで買い物や換金ができる。ここはマタグオブよりかなりお店が多く、品数も豊富でアクセサリーやお土産などの買い物が楽しめる。屋台も安くておいしい。ガイサノというデパートは、レイテ島の三越的存在で、食料品、衣料品、雑貨、下着、カメラ等あらゆるものが揃う。

**★交通**→村内は歩いて移動する。市内は主にハバルハバルという3～5人乗りのバイクで

移動。大きな荷物があるときは、トライシクルという荷台付きバイクを利用することも。オルモックなど遠くへ行くときはバスを使う。乗客が多いときは、バスの屋根に乗ることもある。セブ島からレイテ島へはスーパーキャットやウィーサムという高速船で移動。荷物検査が厳重に行われる。船内はクーラーが効いているため、長袖があると便利。空港から船乗り場まではタクシーを使う。タクシーは初乗りが50pとかなり安い。

## 10. 保健報告

### ◆ 8月22日 びよこ

〈症状〉体のだるさ、頭痛

〈状況〉マンサハオンでの Evaluation 中に、足どりが重くなり座り込んだ。日差しが強かったため、熱中症にかかったと思われる。

〈処置〉マンサハオンの村長の家で横になり、仮眠をとった。村長がくれた薬や、ポカリスエットを飲んだりして、2時間ほどで回復。

### ◆ 8月23日 シーヤン

〈症状〉ハチ刺され

〈状況〉マラサルテを歩いている途中、急に足に痛みを感じ、見てみるとハチがいたため、刺されたと思われる。

〈処置〉その場で近くにいたコアクドクター（気で治療を行う医師）に“気”をおくってもらったが、不安だったのでマキロンで消毒し、絆創膏をはった。日によっては痛かったが、1週間ほどで治った。

### ◆ 8月24日～ たくみ、びよこ、シーヤン

〈症状〉両手両足にアレルギー

〈状況〉24日にたくみの右足に虫さされに似た症状が見られた以降、両手両足に広がり、びよこ、シーヤンにも症状が現れた。20日に訪れたヒナブヤンで山の中に入ったとき、草まけしたと思われる。この症状はかくことで爪にかゆみの成分が付着し、そこから他の部分に広がっていったと思われ、利き腕である右腕はあまり症状がでなかった。特に、びよこはうみができ深刻だった。

〈処置〉たくみとびよこはナナイ・ピーンに診てもらった処方箋の薬を飲み、症状は落ち着いた。びよこは念のため皮膚科で受診。シーヤンは症状がひどくなかったため、様子を見た。帰国後、完治した。

今回のキャンプでは入院する人もいなく、大きな病気もなく終えることができた。しかし、体力的な疲れが原因でキャンプ1週間後に体調を崩すこともあった。本キャンプはさらに長い期間でワークを行うため、手洗い、うがいなど基本的なことを徹底して、キャンパーの健康に注意したい。

# 1 1 . 会計報告

収入(p)		支出(p)		
繰越金	1,455.10	交通費	ハバルハバル	170
徴収金	18,000		タクシー	250
新生銀行	4,850		バス	1,105
携帯代	500		船	3,525
合計	24,805.10		ガソリン代	1,496
			バン	435
			小計	6,981
		食費		2,359
		宿泊費		875
		携帯代	充電器	120
			バッテリー	199
			ロード	1,687
			小計	2,006
		ロクロク	お礼	5,500
			ガソリン代	1,175
			タイヤ修理代	20
			小計	6,695
		Tシャツ	服代	760
			印刷代	1,600
			小計	2,360
		その他		271
			合計	21,547

※収入について

徴収金  $6,000p \times 3 = 18000p$

※支出について

Tシャツ代

服代  $95p \times 8着 = 760p$

印刷代  $200p \times 8着 = 1,600p$

ロクロクさんへのお礼について

今回はほとんど毎日来てくれたため、  
多めに渡すことにした。目安は1日500p

## ★料金の目安

### ◆宿泊費

- ・シランガンホテル (セブ島) ※エアコン付きツイン 875p/部屋、泊

### ◆交通費

- ・バン (シランガン→Supercat 乗り場) 385p/台  
(マタグオブ→オルモック) 50p/人
- ・船 Supercat (セブ→オルモック) ※学割 625p/人 (港湾税込み)  
Weesam (オルモック→セブ) ※学割 550p/人 (港湾税込み)
- ・バス (オルモック→マタグオブ) 40p/人  
(オルモック→リブンガオ) 20p/人  
(リブンガオ→マタグオブ) 15p/人  
(オルモック→メリダ) 25p/人  
(サントロサリオ→オルモック) 30p/人
- ・ハバルハバル (マタグオブ→サンセバスチャン) 15p/人

- ・空港税 セブ空港 550p/人
- ・ガソリン代 53p/ℓ

また、食費に関してはK Pが管理していたので、詳細をのせておく。

◆食費 8月18日(火)～9月3日(木)

食材	合計(p)	備考
豚	682	160p/kg
鳥	260	
野菜	862	カット野菜:30p/kg
魚	310	120-130p/kg
卵	75	
保存食	160	パンシット(麺)・缶詰・コーヒー等
調味料	33	油・醤油
その他	490	昼食・お土産
合計	2,872	

◆飲料費

食材	合計(p)	備考
酒	133	トゥバ
水	70	
ペプシ	148	
合計	351	

生活用品費

生活用品	合計(p)	備考
たらい	95	
洗剤	44	
その他	14	
合計	153	

※各 party の食材費を含む

◆全体

食費	2,872
飲料費	351
生活用品費	153
合計	3,376

収入(全体より)	3,359P
支出	3,376p
誤差	-17p
会計残高	5p

※3人とダディ、マミー、ロクロクさん、計6人分の食材を朝、夜合わせて150p/日を目安に買った。Party費はサントロサリオでのWelcome Partyが550p、サンセバスチャンでのFarewell Partyが673pであった。

◆レート

2009.8.17～2009.9.4

4,850p/1万円

## 1 2. キャンプ T シャツについて

今回の下見キャンプでは、下見をサポートしてくれたなみさんやロクロクさん、ホームステイさせてもらったダディドドン&マミーサニーへの感謝の品として、下見キャンプでは初となるキャンプ T シャツを製作した。オルモックで無地の T シャツを購入して、印刷屋さんに自分たちで決めたデザインを印刷してもらった。

### ★製作手順

- ①デザインを決める
- ②T シャツの購入(8/26)
- ③デザインを描いた原寸大の紙と T シャツを印刷屋さんに提出(8/26)
- ④デザインの確認(8/29)
- ⑤印刷された T シャツの受取(9/3)

\*受取予定していた 9/1 に T シャツを受け取れなかった

### ★費用

- ・ T シャツ代金      P95×8=P760
- ・ 印刷代金          P200×8=P1,600

合計 P2,360

### ★デザイン





## 1 3 . 感想

### ★しーやん

リーダーとして臨む初のキャンプ。それも経験のない下見。もちろん不安は大きかったが、その一方で自分にどれだけのことができるのか楽しみでもあった。

前回のキャンプではボランティアとは何かについて考えていたが、今回はリーダーのあるべき姿について考えていた。強い意見を言って一人で全体を引っ張っていくべきか、それぞれの意見を聞き能力を引き出してチームとしての力をあげていくべきか…いろいろな方法があり、その全てが成功とも失敗ともなり得る。そんなとりとめのない議論ばかり頭の中で続け、軸であるべき自分がふらついてしまったことが、今回のキャンプでの最大の反省だと思う。

キャンプは他にも多くの反省を残したものの、無事に終えることができた。一度つぶれかけた自分を今動かしているのは、未来…来年春の本キャンプである。自分に負けてられない。これからの半年間…反省点はきちんと反省し、もう一度自分を見つめ直して、頑張りたいと思う。なにより次はおそらく最後のフィリピン。自分の願いはただ単に、最高の仲間と、最高のワークを、最高の形で成功させること。自分にはスキルもないし、できることも限られているけど、この強い気持ちがある。継続されたフィリピンキャンプに期待を寄せている方も多い。そんな方々のため、私たちの訪問を心待ちにしてくれてるフィリピン人のため、付いてきてくれる仲間のため、そして自分自身のために強い気持ちで本キャンプに臨みたい。

さて、感謝の言葉を――

今回のキャンプは周りの人の支えを特に大きく感じました。現地ではダディ・ドドンがバイクを運転してくれたり、冗談で笑わせてくれたり、マミー・サニーがご飯の用意や洗濯をしてくれたり、マニラから留学中のなみさんが駆けつけてくれたり、国内ではさゆみが週1で連絡をしてくれたり。ロクロクさんやF Iのみんなはもちろん、このキャンプを理解してくれた友人や家族が、精神的にも健康的にも、あらゆる面で支えてくれました。すべての方々に感謝すると同時に、次のキャンプの成功を約束します。ゆびきりげんまん、ゆびきったっ！！(笑)本当にありがとうございました！

### ★びよこ

私が今回の下見キャンプで感じたのは色々な面での力不足です。具体的な反省点を挙げればきりがありません。それらすべての根本にあるのは、フィリピンという地でキャンプを作り上げる意味をしっかりと理解できていなかったからだと思います。しかし、今回の下見を通してその意味を実際に肌身で感じることができました。またそれだけでな

く私たちが本当に多くの人々に支えられていることに気が付くことができました。今回現地の人々の多大な協力が得られたことは本当に幸運としか言いようがありません。これも前のキャンパーが現地で築き上げてきた信頼関係のおかげだとありがたく感じました。このように私個人にとって気づきの多い下見キャンプとなりました。

今回学んだものを生かして、今度は“自分”のためだけではなく、“相手”のためにもなれるように、誰もが何か素敵なものを得られるように行動していきたいと思います。私たちキャンプが多くの人の協力や努力の上に成り立っていることを絶対に忘れず、春のキャンプを最高のものにしようと思いました。

#### ★たくみ

FIWCの活動を知ったのは大学の食堂に張ってあったポスターを見てだった。FIWCのような活動が高校のころから興味があったので、話だけでも聞いてみようと思ったが、その時には既にFIWCの新歓も説明会も終わっていて…そこから書いてあったアドレスにメールしたのだが、その次の日にはポスターがなくなっていたことを考えると、ここに感想を書いているのもなんだか不思議だなあと感じる。

3週間も海外に行くこと自体初めてだったが、これほど充実した3週間を送れたのも始めてだった。毎日毎日、自分は何ができるかを考え、自分の不甲斐なさを感じ、それでもキャンプを終えた今、この3週間で自分の課題ややるべきことが掴めた気がする。そして自分たちが多くの人たちに大きな影響を与えられることを知った。一方で、ロクさん、ダディ、マミーなど本当に沢山のひとと接しているうちに、自分の考え方もまた変わってきた。キャンプ前とは違う自分に気づかせてくれたみんなに、自分ができる最大の感謝の意を込めた本キャンプにしたいと思う。

英語もビサヤ語もできず、現地人との上手くコミュニケーションが取れなかった、自分勝手になってしまった、周りに頼りすぎてしまったとか、出来なかったことを挙げればきりが無いけれど、いつでも励まし、支えてくれたしーやんとびよこに心からありがとうと伝えたい。2人がいなければ、自分にとって下見キャンプはこんなにも大きなものにならなかったと思う。

行ってよかったと心から思える3週間だった。

FIWCのメンバーのみんな、フィリピンのみんな、本当にありがとうございました!!!